

## 研修報告書 No.6

所 属： 昭和大学病院

氏 名： 岸 啓太郎

研修先： 土佐市民病院

地域医療研修病院として高知県土佐市の土佐市民病院にて7月に4週間研修させていただきましたのでここにご報告させていただきます。横浜育ちである私は、これまで高知ないしは四国に縁がなく、今回の研修で初めて四国に降り立ちました。高知龍馬空港に降り立った時は一人で知らない土地に来た不安もありましたが、高知医療再生機構の方の親切な案内で不安も払拭され、むしろこれからの高知での研修生活に胸を高鳴らせて土佐市民病院へと足を運びました。

土佐市民病院の初めの印象は土佐市の地域中核病院を担う病院というのに納得するほどの規模と設備が整えられており、綺麗な病院だなと思いました。その後院長先生にご挨拶させていただいたときには、初対面にもかかわらず両手を広げて迎えてくださり、親しみにあふれた先生でとても安心したのを覚えています。

土佐市民病院での研修は主に2つあり、内科・外科・小児科の一般外来と病棟・救急患者対応でしたがいずれの研修もとても充実したものとなりました。

一般外来研修は大学病院での研修のように上級医の手伝いをしながらの外来ではなく、自分が主治医となって外来を行うというもので、初めての経験をさせていただきました。といっても、自分の研修先の昭和大学横浜市北部病院では2次救急で研修医がファーストタッチで患者を診ることとなっており、問診や検査などは躊躇なく自らオーダーすることはできましたが、今まで経験してきた救急外来と違い、一般外来では時間制限があることに途中から気づきました。そこでは次から次に来る患者さんをいかに無駄なく問診し、検査をすることが求められ、患者のトリアージごとに時間配分を決める感覚が養われました。また、救急外来では話すことが難しい患者も多く、じっくり問診をするという時間はとれない診療ばかりだったため、身体所見だけでなく詳細な病歴聴取からも鑑別を求められる一般外来では、上級医の先生と目の前の患者を診て何を鑑別し、何を優先して問診すべきなのかを考えるきっかけとなりました。

外科外来では、主に外来で診ることが可能な小さな創傷処置がメインで、今回の研修では残念ながら縫合などをする機会には恵まれませんでしたが、どのように処置をし、その後のフォローをするのかを実践し、学ぶことができました。

小児科外来では、まだ小児科を回っていなかった私に様々な視点から診療・医療について講義をしてくださり、小児を見るときは小児の身体だけではなく、行動・言動、親の様子や親との関係を何気なく見ながら診察することが大切であることを目の当たりにすることが

できました。五感をフルに使った診療とはこのことかと思われました。

病棟・救急患者対応では、外来や当直などで自ら診た患者さんの中で入院することになった方の経過をみながら、空いた時間で救急患者を診ることをしました。土佐市民病院に来たばかりの時は入院患者もいなかったため、救急対応がメインの時間ではありましたが、救急科の先生は地域の2次救急から救急専門病院の3次救急まで経験されたベテランの方で、手取り足取り救急の身体所見の取り方やエコーの使い方まで教えてくださり、限られた医療資源の中でいかに診るかを学ぶことができました。病棟では自らが入院させた疾患については日々担当医の先生と相談しながら方針を自ら決めることができ、また、入院中に判明した別の疾患についても他科の先生に相談する機会があり、診断や所見の取り方についてもご厚意で教えていただきました。

土佐市民病院は今所属している大学病院と比較すると医師数、患者数は少数ですが、その分知っている顔の人たちの中で働くこととなるため、より責任感が求められる一方で、相談しやすい方が多いのも魅力に感じました。また、土佐市は横浜市と比べて高齢者の割合の多い地域となるため、患者も高齢者に多く見られる疾患がメインでした。これからの医療や私が進もうとしている呼吸器内科では、高齢者医療にどう携わり、高齢者を診るかが鍵となっているため、今回の研修でその現場を見ることができたのは大きいと感じました。

今回地域医療研修の研修先が土佐市民病院となったのは、偶然というしか言いようがないですが、その偶然出会った病院、先生、患者さんはだれも出会えてよかったと思える組織や人ばかりで、土佐市民病院で研修をすることができて本当に良かったと思いました。

「一期一会」という言葉がありますが、一つ一つの出会いを大切にここで培った経験や人脈を生かしてこれからの医療を支えていきたいと思いました。また、もう一つ土佐市民病院で出会った先生から教わった言葉で「棚からぼた餅は棚の下に行かないとぼた餅は落ちてこないよ」という言葉を頂きました。どんな偶然の出来事でも自分の糧となる機会を逃さないように常に目を配りなさいという意味ですが、この言葉のように今回土佐市民病院で自ら医療に携わっていく姿勢を身につけられたことが一番の収穫でした。

土佐市民病院でお世話になった先生方、事務の方々、高知医療再生機構の方々に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。